

西念寺通信

第7号
平成28年8月

発行 西念寺
住職 岡林 俊希 (釋俊希)
名古屋千種区千種二丁目9-20
TEL 052-731-4701
FAX 052-717-2495
ホームページ
<http://sainenji.main.jp/blog/>

メールアドレス

sainenji758@gmail.com

今号の内容

巻頭言 (1)
お同行の部屋 (3)
映画の窓 (4)
坊守の声・事業報告 (5)
法要のご案内 (6)



安居会場 (龍谷大学講堂・重文)



眞実信心の行人は、撰取不捨のゆえに正定聚の位に住す。このゆえに臨終まつことなし、来迎たのむことなし。信心の定まるとき往生また定まるなり。

(末灯鈔 第一通)

*

(現代語訳)

眞実信心をいただいた人(南無阿弥陀仏を聞きひらいた人)は、阿弥陀如来の一度おさめとつたら二度と捨てないというはたらき(撰取不捨)によって、浄土へ必ず往生することに定まった仲間に入り

ます。なので臨終の心境を心配したり、死ぬ瞬間の仏さまのお迎えを期待する必要はありません。信心が定まった時が往生が定まった時なのです。(住職 意識)

*

先般、みなさまのご協力のおかげによりご本山の安居に数日間、出席させていただきました。

安居とは本山でもっとも伝統と歴史のある夏の講習会のことです。勸学、司教という学問のある和上さま(和上とは学僧の敬称)の講義が三講あり、その後、会読という、ある教義について問う人と答える人が二人で問答しながら、皆

で理解を深めていく時間があります。

今回は会読で来迎・不来迎義（他宗ではライゴウ、真宗ではライコウと読む）についての議論がありました。浄土真宗では臨終に仏さまのお迎えがなかったら往生が決まらないのか。という問題です。皆さんも弥陀来迎図というものをごらんになったことがあると思います。阿弥陀さまがたくさんの菩薩を率いて迎えに来てくださる絵です。最近ではジブリの「かぐや姫」のラストシーンが来迎のイメージでした。

親鸞聖人がお出ましになるまでの浄土の教えでは、来迎を期待するのは当然のことでした。そのために一念仏や瞑想や善いことをたくさんして、みな来迎を待っていたのです。でもそれでは、死ぬまで安心できないことになってしまいます。

親鸞聖人がお出ましになって阿弥陀さまの本当のお救いは死んで

からではなくて、今ここで南無阿弥陀仏の名号に込められたお心に触れた瞬間だと教えて下さいました。その時に浄土に往生して仏になることに間違いない身になるのです。だから来迎を期待する必要はないと言うわけです。

親鸞聖人は「信心定まるとき往生定まる」と定まるという言葉をよく使われます。何気なく聞いてみると「あっ、そう」ってぐらいですが、私は最近、すごいことだなあと思うようになりました。

この世界は本当に定まるということがない、これで安心ということがない世界だと思われませんか。その中でただ一つ、本当に安心だと言える世界がある。

それが親鸞聖人の信心の世界だと思えます。自分がいつ死のうとどんな状態になろうとも、間違わさぬ、放しはしないとの阿弥陀さまの仰せ。こんなに確かなものはありません。

真宗では他力の信心のことを安

心（あんじん）とも言います。本当の安心が得られるまで、聞法を心がけましょう。真宗は生きている今この瞬間に本当に安心のできる教えなのです。

安居では、今度のお彼岸に来て下さる金山先生と一緒に。お彼岸については最後のページでお知らせいたします。

安居では、あらためて間違いのない真宗のおこころを確認させていただきます。ありがとうございます。南無阿弥陀仏。（住職）



お同行の部屋

小泉 礼三さん

日本人のすぐれた点とはどこにあるのでしょうか。礼三さんがお寺で私に紹介して下さいました小栗重吉はそのことを教えてくれる顕著な例だと思えます。礼三さんに寺報の原稿を依頼しましたら、快諾して下さいましたので、掲載させていただきます。

*

「船長日記」小栗重吉漂流記

あらずじ 明治維新の約五十年前に半田の船頭である重吉が督乗丸（千二百石・十四人乗り組み）にて江戸に出航しその帰路、御前崎にて大嵐に出逢い一人を海に失う。舵もぎ取られ、転覆恐れて帆柱を切り、ダルマ船となり漂流。その間仲間十人病死。484日目にイギリス捕鯨船に救助され、北廻りに遍歴の途中、一人病死し、重吉と音吉の二名のみ尾張に生還しました。

要点

① 漂流に前途に希望を失い皆が

自暴自棄になりかけました。重吉は鋼の輪を珠数に見立てて皆で百万遍の念仏を唱えてから米を与えなどの知恵を働かせて沈静化をはかりました。

② 漂流百日ごろ無事尾張に戻る者あらば回向院のような立派な供養碑を建てようと皆で申し合わせをしました。

③ 五カ月頃より病人続出。重吉のみは激痛に耐え剃刀の荒療治した効ありて一人だけ元気持続。

④ 一人で仲間十二人の介抱、船維持の一切の仕事をなすうちなぜ俺だけ一人がこんな目にとの不平不満の心がわきました。

⑤ しかしこれも前世にてお世話になった恩返しと思いなおしたら楽に仕事ができるようになりました。

⑥ 残った三升の米をおかゆにして皆に食べさせても回復せず、ふた月に十人が亡くなりました。

⑦ 水一杯与えるのがやっとの、ものなしの看病を尽くした重吉の人間性に感激しました。

⑧ 三人だけになってから、鯉七匹釣り上げました。食べるうち、「おはつほ」（神仏にそなえる初物）を供えることにすぐ気付く宗教心は見事。

⑨ 皆との約束の船形供養碑は熱田の成福寺に立派にまつられています。

*

（小泉礼三）

いかがでしたでしょうか。考え方のしはしに仏教の影響が感じられませんでしょうか。生きとし生けるものは皆お互いに助け合いながら生きています。どんなに苦しい時でも、今までいただいたご恩を心に思い、絶望せずに人助けに励む重吉に日本人の深い精神性を感じました。また皆さんで分かちあえたら、ありがたいです。

（住職）

映画の窓

マンガをほめた男

赤塚不二夫



「これでいいのだ！」

皆さんこのセリフ、誰のものか分かりますか。そうです、『天才バカボン』に出てくるバカボンのパパの決めゼリフです。

作者はマンガ家の赤塚不二夫ですが、8年前に亡くなられました。その直後、雑誌などで「これでいいのだ！」は、仏教、特に真宗と深いつながりがあるなどと、述べられていましたが、私自身はそうかなあと疑っていました。

しかし！今回このドキュメンタリー映画『マンガをほめた男』を見て、真宗に深く通じる人だと

いうことが、私にはわかりました。赤塚不二夫さんは昭和十年に満

州国で生まれます。そして昭和二十年八月十五日、日本が戦争に敗けた日、満州では価値観がひっくり返りました。強者と弱者が入れ替わり、たよりにしていたものが崩れました。この時の心象風景を「赤い空とカラス」という文章にしておられます。（この文章は『漫画家たちのマンガ外交』という本に載っています。お寺の本棚に入れました。）これを読めばまさに仏教的な死生観、人生観を持たれていたことがわかります。

また、末の妹が亡くなるという満州から日本への厳しい逃避行の後、母のふるさと奈良を経て、父の親戚をたより新潟に行かれます。その時に間借りした場所が真宗仏光寺派の法讃寺というお寺です。真宗の影響があったと考える方が普通ではないでしょうか。

タレントのタモリさんは赤塚さんの葬儀の弔辞で、誰にでも優し

かった赤塚さんの人柄に触れた後でこう言います。

「あなたの考えはすべての出来事、存在をあるがままに前向きに肯定し、受け入れることです。それによって人間は重苦しい意味の世界から解放され、軽やかになり、また時間は前後関係を断ち切られて、その時、その場が異様に明るく感じられます。この考えをあなたは見事に一言で言い表しています。すなわち『これでいいのだ。』」

まさにどんな存在であっても、今ここでありのままに受け入れて下さる阿弥陀さまのお心とそれによつて解放される私たちに通じるとは思われませんか。皆さんのご意見をうかがうのを楽しみにしています。これでいいのだ！

ちなみに「バカボン」とはフランス語で放浪者の意味であり、仏教では悟った人の意味です。住職

坊守の声

坊守：住職の妻のこと

井の中の蛙大海を知らず
今のわたしのこと。
お互いを分かったもの同士で
話し合うこともないけれど、
と目を向けるとそこには言葉を
交わしたこともない人たちの世
界が広がっている。

ただ友達になりたい。
お互いのことを知りたい。
そんな風に思う。
そのために言葉を尽くしたいと
思う。
優しく微笑み、しっかりと耳を
傾けたい。
もし、よければそばに座り、そ
の人の世界に遊んでみたい。
あなたの声を聞かせてほしい。

◇

先日、住職に連れられて安居の
聴講をさせてもらいました。
教学を学ぶこと「難しく、ややこ
しい」という思いから避けている
ところがありました。自己のお
味わいや聴きようを御聖教（お経
さまや親鸞聖人などのお書物）に
量ることはとても大切なことだと
感じました。

蓮如さま（本願寺八代目、御文
章の作者）が「仏法は微細にきけ」
とおっしゃっていたことを思い出
しています。

どうやっても、偏ったり、間違
ってきいてしまうわたしの聴きよ
うをお聖教をたずねることによっ
て丁寧に聴き直していくのだと思
いました。

それはとても刺激的で楽しい作
業だと感じられたことが嬉しい。
お勉強に意欲が湧いてきます。
今だけかもしれないが…。

事業報告

毎月第二土曜日に交互に行って
いる正信偈講座と聞きあう会は、
だんだんと参加者の関係も深まり
いい会になってきているのではな
いかと思います。また、西念寺の
門信徒の方ならどなたでも参加で
きる世話人会でも「歎異抄」を皆
で深く味わっています。

加えて真宗カウンセリングのワ
ークショップや勉強会なども開催
させていただいております。
フェイスブックにも西念寺のペ
ージがあり、行事のお知らせなど
をしておりますので、そちらもご
覧下さい。

これから、子どもの集いや楽し
い行事を増やしていこうと考えて
おります。

ぜひとも世話人会等にご参加い
ただき、貴重なご意見をうかがえ
たらと思っております。

（住職）

法要のご案内

秋季彼岸会・永代経法要

九月二十五日(日)

講師 金山 玄樹 師

(九州龍谷短期大学非常勤講師)

福岡県 浄円寺)

報恩講法要

十月二十三日(日)

講師 西光 義秀 師

(本願寺派布教使・奈良県 万行寺)

ともに午後一時半から

西念寺本堂にて



布教される西光義秀先生



金山玄樹先生

秋になりますと西念寺は法要の時期となります。まずは、秋の彼岸会永代経法要ですが、住職と共に龍谷大学で聞法・勉強に励んだ法友である金山先生をお招きします。気さくで、分かりやすいお話をされる先生ですので、どうぞご参詣下さい。

また、十月の報恩講法要は昨年引き続き西光義秀先生にお話いただきます。西念寺ではご著書も販売しておりますのでぜひお求め下さい。どちらの先生も時間の許す限り、懇親の場を設けていただく予定ですので、ぜひこの機会に法の疑問や人生の悩みなどをお聞き下さい。

また、法要のお手伝いも募集しておりますので、みなさまのご協力をお願いいたします。

よりよい法要にするために、これから準備に励みますので、どうぞ楽しみにお待ち下さい。それではお体に気をつけて。(住職)